

第33回 ツール・ド・北海道 2019

元気で
北海道

ROUTE



ステージレース 総走行距離 約541km

- ▶ 第1ステージ(ロードレース) [185km] 9/6(金)
旭川市～東神楽町～東川町～美瑛町～上富良野町～
中富良野町～富良野市～南富良野町～新得町
- ▶ 第2ステージ(ロードレース) [174km] 9/7(土)
帯広市～音更町～士幌町～上士幌町～上川町～北見市(留辺蘂)
- ▶ 第3ステージ(ロードレース) [182km] 9/8(日)
北見市～訓子府町～置戸町～北見市(留辺蘂)～遠軽町～
上川町～愛別町～当麻町

北の大地で繰り広げられる疾走ドラマ

9/6 fri → 8 sun

■主催 / 公益財団法人ツール・北海道協会、公益財団法人日本自転車競技連盟
 ■後援(序) / 国土交通省、スポーツ庁、経済産業省、北海道、北海道市長会、北海道町村会、公益財団法人JKA、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、一般社団法人日本自転車普及協会、一般社団法人自転車協会、NHK札幌放送局、北海道テレビ放送株式会社、北海道経済連合会、一般社団法人北海道商工会議所連合会、公益社団法人北海道観光振興機構、一般社団法人北海道建設業協会、一般社団法人北海道舗装事業協会、一般社団法人日本道路建設業協会北海道支部、北海道アスファルト合材協会、一般社団法人北海道バス協会、公益社団法人北海道トラック協会
 ■特別協力(予定) / 北海道新聞社
 ■協力(予定) / 北海道開発局、北海道経済産業局、旭川市、東神楽町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、新得町、帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、上川町、北見市、訓子府町、置戸町、遠軽町、愛別町、当麻町、公益財団法人北海道スポーツ協会、一般社団法人北海道交通安全協会、北海道自転車競技連盟、北海道自転車軽自動車商業協同組合、北海道自転車協会、北海道サイクリング協会、特定非営利活動法人北海道歩くスキー協会
 ■お問い合わせ / 公益財団法人ツール・北海道協会

TEL. 011-222-5922
<https://www.tour-de-hokkaido.or.jp>



事業報告 RACE REPORT

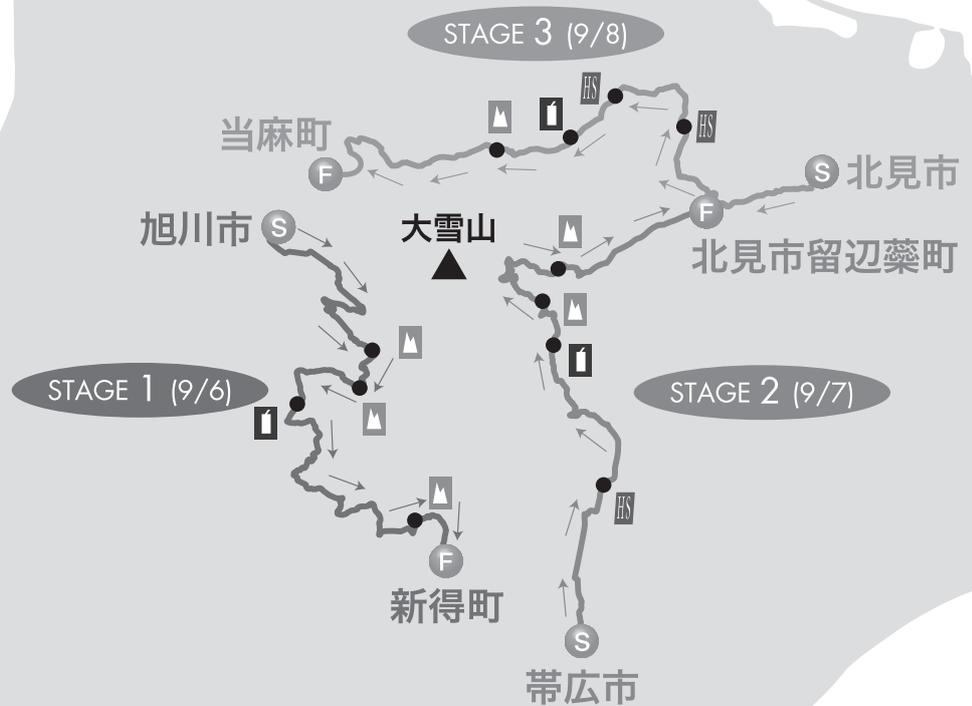


競輪の補助事業

この大会は、競輪の補助を受けて実施しました。
<https://www.jka-cycle.jp>

COURSE LAYOUT 2019

コースレイアウト 2019



■ 9月6日(金)開会式 旭川市総合防災センター駐車場特設会場 <8:20~8:35>

[競技日程]

■ 9月6日(金)第1ステージ 185Km(ロードレース) 旭川市~東神楽町~東川町~美瑛町~上富良野町~中富良野町~富良野市~南富良野町~新得町

スタート:旭川市 総合防災センター <9:30>
フィニッシュ:新得町 保健福祉センター

■ 9月7日(土)第2ステージ 174Km(ロードレース) 帯広市~音更町~士幌町~上士幌町~上川町~北見市留辺薬町

スタート:帯広市 帯広競馬場 <9:30>
フィニッシュ:北見市留辺薬町 旭運動公園

■ 9月8日(日)第3ステージ 182Km(ロードレース) 北見市~訓子府町~置戸町~北見市留辺薬町~遠軽町~上川町~愛別町~当麻町

スタート:北見市 市民温水プール <9:30>
フィニッシュ:当麻町 とうまスポーツランド

■ 9月8日(日)最終表彰式 当麻町公民館「まとまーる」特設会場 <15:00~16:00>(ステージ表彰含む)

- S..... スタート
- F..... フィニッシュ
- HS..... ホットスポット
- M..... 山岳ポイント
- I..... 補給所

総走行距離
541km

2019
AREA

大自然の中を町から町へと銀輪が駆け巡る本格的な自転車ステージレース「ツール・ド・北海道」は、今年で33回目を迎えた。9月6日(金)から8日(日)までの3日間、昨年大会前日に発生した、北海道胆振東部地震のため中止となった道北・道東地域の4市16町にまたがるコースに再度挑戦した。

9月6日(金)の第1ステージは、旭川市総合防災センターをスタートして、標高1,000メートルを超える十勝岳を含む3か所のKOMをアタックし、新得町保健福祉センターまでの185kmとなる今大会最長のコースであった。

9月7日(土)の第2ステージは、小雨が降る帯広競馬場をスタートし、隊列は北見市留辺薬町に向けて北上した。途中、今大会最高標高となる三国峠を含む2か所のKOMを走り抜け、旭運動公園でフィニッシュした。

最終日となる9月8日(日)の第3ステージは、北海道の9月とは思えない猛暑の中、北見市市民温水プールからスタート。2か所のホットスポットや大会最後のKOMを選手は暑さとも闘いながら、当麻町とうまスポーツランドでフィニッシュした。

北海道の屋根と称される大雪山系の麓を舞台とした過酷なレースは、99名でスタートしたが、3日間走り切った選手は73名となった。

ツール・ド・北海道2019 事業報告書

●大会概要

公益財団法人 ツール・ド・北海道協会

1.事業開始	2019年4月23日(火) 札幌市中央区北5条西6丁目 第二道通ビル2階 2A会議室において「ツール・ド・北海道2019」実行委員会を開催					
2.事前会議	2019年9月5日(木) 役員打合せ会議、参加チーム受付、ライセンスコントロール、監督会議、ドライバーズミーティング、報道会議、審判合同会議、部門別会議					
3.大会期間	2019年9月6日(金)～9月8日(日) 3日間					
4.ステージレース	日程	日 程	競 技	経路・会場	距離(km)	道路別距離(km)
		9月6日(金)	第1ステージ(ロードレース)	旭川市～新得町	185	国道/308.3(57.0%)
		9月7日(土)	第2ステージ(ロードレース)	帯広市～北見市	174	道 道/129.1(23.9%)
		9月8日(日)	第3ステージ(ロードレース)	北見市～当麻町	182	その他/103.4(19.1%)
	参加チーム	海外チーム(5)	①NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ(イタリア) ②トレンガヌ INC.TSG サイクリングチーム(マレーシア) ③HKS1 プロサイクリングチーム(香港) ④ワイルドライフジェネレーション プロサイクリング P/B MAXXIS (アメリカ) ⑤セントジョージ コンチネンタル サイクリングチーム(オーストラリア)			
		国内チーム(15)	①愛三工業レーシングチーム ②キナンサイクリングチーム ③マトリクスパワータグ ④那須ブラーゼン ⑤シマノレーシングチーム ⑥チームブリヂストンサイクリング ⑦チーム右京 ⑧宇都宮ブリツェン ⑨北海道地域選抜 ⑩日本大学 ⑪中央大学 ⑫京都産業大学 ⑬日本体育大学 ⑭明治大学 ⑮京都大学			
	参加人数	参加選手 99人、チームスタッフ 55人				
5.関係市町村	総数	20市町(4市16町)				
	地元賞等	新得町 新得そば・十勝無敗(そば焼酎)の詰め合わせセット 北見市 特産物詰め合わせセット 当麻町 当麻鍾乳洞熟成酒 龍之泉 ホットスポット賞 丸瀬布特別地域ホットスポット賞 「地元賞」				
	アトラクション	新得町 「新得音頭保存会」による踊り披露 北見市 「るべし留青太鼓」による和太鼓演奏 当麻町 「蟠龍太鼓保存会」による和太鼓演奏				
6.関係者	役員	大会役員 55人、実行委員・幹事 83人、競技役員 204人 計 342人				
	交通整理等	警察官 233人、コース・会場警備員 482人、コース整理員 731人、会場設営等ボランティア 50人				
7.広報・安全対策	広報対策	ポスター 6,000枚(大1,000枚)、交通規制チラシ45,000枚、新聞折り込みチラシ2,000枚、新聞(北海道新聞、読売、朝日)、日本道路交通情報センター、国道道路情報板、各種スポーツ雑誌、SNSを活用した情報発信等 各ステージダイジェスト動画及び総集編をホームページで公開				
	安全対策	交通規制・競技看板 386枚、セーフティーコーン 1,039本、バリケード 908本				
8.観衆人員(概数)	23,000人					
9.印刷物	ガイドブック 10,000部、テクニカルガイド500部、事業報告書500部					
10.車両・宿泊	車両使用台数143台(うち2輪車25台)、バイク9台、宿泊施設数13か所					
11.まとめ	<p>今年は、胆振東部地震により全日程をキャンセルした昨年の大会の仕切り直しと位置づけ、大雪山系を周回し、第1ステージに3箇所のKOMを、第2ステージも国道で北海道最標高の峠を含む2箇所のKOMを設けるなど、山岳コースの色彩が強いコースレイアウトとしたため、良好なコンディションでありながら選手間の実力差が歴然となり、第1ステージ出走選手99人のうち最終ステージでフィニッシュした選手が73人と、多くの選手が脱落した。特に第3ステージは9月の北海道としては異例の高温も重なり、選手の体力を消耗させた。</p> <p>第1ステージは3日間の中で最も過酷な山岳コースで、先頭集団と後続集団が最大4分50秒離れ、フィニッシュは2位に25秒差をつけたNIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネのザッカントーニ フィリッポが制した。</p> <p>第2ステージは、先頭集団と後続集団のタイム差がつかず、第3ステージのフィニッシュまでもつれる白熱したレース展開となった。</p> <p>個人総合時間賞は、第1ステージを制し、第2ステージ以降も上位をキープしたザッカントーニ フィリッポ、個人総合山岳賞は第1ステージで2つの山岳ポイントをトップ通過したボウ カンパニー ジョアン、個人総合ポイント賞はロバト デル ヴァレ ファンホセ(いずれもNIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)が受賞し、団体総合時間賞もNIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ(イタリア)が、U26団体総合時間賞はワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXISがそれぞれ受賞した。</p> <p>大学生チームは6チームが出場したが、過酷な山岳コースに苦戦し、第2ステージまでに10人が脱落した。</p> <p>今シーズンから他の国際大会でも厳しくなった指定エリア外の投棄ペナルティは、第1ステージが8人、第2ステージで2人が罰金50～100スイスフランを課せられた。</p> <p>ツール・ド・北海道大会の開催を通じ、参加選手、特に若手選手の競技力向上と人材育成、サイクルスポーツの普及・振興に大きく貢献するとともに、地域の観光、産業の振興、活性化等にも大いに寄与した。</p>					

■NIPPO・ヴィニ ファンティーニ・ファイザネ(イタリア) NIPPO-VINI FANTINI-FAIZANE (ITALY)



●選手 / RIDER

初山 翔
HATSUYAMA Sho
伊藤 雅和
ITO Masakazu
ロバト デル ヴァレ ファンホセ
LOBATO DEL VALLE Juan Jose
ボウ カンパニー ジョアン
BOU COMPANY Joan
ザッカランティ フィリッポ
ZACCANTI Filippo

●監督 / SPORTS DIRECTOR

大門 宏
DAIMON Hiroshi

■HKSI プロサイクリングチーム (香港) HKSI PRO CYCLING TEAM (HONG KONG)



●選手 / RIDER

フォン カーホー
FUNG Ka Hoo
チョイ ヒウフォン
CHOY Hiu Fung
ホー バー
HO Burr
チウ ホサン
CHIU Ho San
ラウ ウェンヤウ ヴァインセント
LAU Wan Yau Vincent

●監督 / SPORTS DIRECTOR

ダゴーン エルヴェ
DAGORNE Hervé

■セントジョージ コンチネンタル サイクリングチーム (オーストラリア) ST. GEORGE CONTINENTAL CYCLING TEAM (AUSTRALIA)



●選手 / RIDER

バーウィック セバステアン
BERWICK Sebastian
カヴァナー ライアン
CAVANAGH Ryan
ダットン ジェイ
DUTTON Jay
リアドン コナー
REARDON Conner
ウィギンズ クレイグ
WIGGINS Craig

●監督 / SPORTS DIRECTOR

ボイス スチュアート
BOYCE Stuart

■キナンサイクリングチーム KINAN CYCLING TEAM



●選手 / RIDER

ガルシア マルコス
GARCIA Marcos
ルバトマ
LEBAS Thomas
グアルディオラ サルバドル
GUARDIOLA Salvador
山本 元喜
YAMAMOTO Genki
新城 雄大
ARASHIRO Yudai

●監督 / SPORTS DIRECTOR

石田 哲也
ISHIDA Tetsuya

■那須ブラーゼン NASU BLASEN



●選手 / RIDER

下島 将輝
SHIMOJIMA Masaki
西尾 勇人
NISHIO Hayato
中村 魁斗
NAKAMURA Keito
西尾 憲人
NISHIO Keito
柴田 雅之
SHIBATA Masayuki

●監督 / SPORTS DIRECTOR

岩井 航太
Iwai Kota

■トレンガヌ INC.TSG サイクリングチーム (マレーシア) TERENGGANU INC.TSG CYCLING TEAM (MALAYSIA)



●選手 / RIDER

マット アミン モハマド シャルウ
MAT AMIN Mohd Shahrul
マズキ ヌル アミル ファクルディン
MAZUKI Nur Amirull Fakhruddin
モレイ ドリュエ
MOREY Drew
バトムンフ マラル エルデネ
BATMUNKH Maral-Erdene
ゴー チュン ファン
GOH Choon Huat

●監督 / SPORTS DIRECTOR

ハント ジェレミー ジョナサン
HUNT Jeremy Jonathan

■ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS (アメリカ) WILDLIFE GENERATION PRO CYCLING P/B MAXXIS (UNITED STATES OF AMERICA)



●選手 / RIDER

ボードマン サミュエル
BOARDMAN Samuel
バセット スティーヴン
BASSETT Stephen
キングスローヴァー ライアン
KINGSOLVER Ryan
ヴォディッカ カムデン
VODICKA Camden
ガリックソン フィン
GULLICKSON Finn

●監督 / SPORTS DIRECTOR

ライス マシュー
RICE Matthew

■愛三工業レーシングチーム AISAN RACING TEAM



●選手 / RIDER

岡本 隼
OKAMOTO Hayato
草場 啓吾
KUSABA Keigo
大前 翔
OMAE Kakeru
住吉 宏太
SUMIYOSHI Kota
モニエ ダミアン
MONIER Damien

●監督 / SPORTS DIRECTOR

別府 匠
BEPPU Takumi

■マトリックスパワータグ MATRIX POWERTAG



●選手 / RIDER

マンセボ ペレス フランシスコ
MANCEBO PEREZ Francisco
トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ
TORIBIO ALCOLEA Jose Vicente
フェルナンデス カサソラ アイラン
FERNANDEZ CASASOLA Airan
安原 大貴
YASUHARA Daiki

●監督 / SPORTS DIRECTOR

安原 昌弘
YASUHARA Masahiro

■シマノレーシングチーム SHIMANO RACING TEAM



●選手 / RIDER

中井 唯晶
NAKAI Tadaaki
木村 圭佑
KIMURA Keisuke
湊 諒
MINATO Ryo
横山 航太
YOKOYAMA Kota
黒枝 咲哉
KUROEDA Saya

●監督 / SPORTS DIRECTOR

野寺 秀徳
NODERA Hidenori

■ チームブリヂストンサイクリング TEAM BRIDGESTONE CYCLING



●選手 / RIDER

石橋 学
ISHIBASHI Manabu
平塚 吉光
HIRATSUKA Yoshimitsu
徳田 優
TOKUDA Suguru
孫崎 大樹
MAGOSAKI Daiki
今村 駿介
IMAMURA Shunsuke

●監督 / SPORTS DIRECTOR

六峰 巨
MUTSUMINE Wataru

■ 宇都宮ブリッツェン UTSUNOMIYA BLITZEN



●選手 / RIDER

増田 成幸
MASUDA Nariyuki
鈴木 譲
SUZUKI Yuzuru
堀 孝明
HORI Takaaki
小野寺 玲
ONODERA Rei
岡 篤志
OKA Atsushi

●監督 / SPORTS DIRECTOR

清水 裕輔
SHIMIZU Yusuke

■ 日本大学 NIHON UNIVERSITY



●選手 / RIDER

鵜沼 利久
UNUMA Riku
栗原 悠
KURIHARA Haruka
三澤 優樹
MISAWA Yuki
依田 翔大
YODA Shota
片桐 東次郎
KATAGIRI Tojiro

●監督 / SPORTS DIRECTOR

井上 由大
INOUE Yoshihiro

■ 京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY



●選手 / RIDER

伊藤 皓平
ITO Kohei
藤田 俊輔
FUJITA Shunsuke
吉岡 衛
YOSHIOKA Mamoru
小出 樹
KOIDE Itsuki
谷内 健太
YACHI Kenta

●監督 / SPORTS DIRECTOR

山岸 正教
YAMAGISHI Masanori

■ 明治大学 MEIJI UNIVERSITY



●選手 / RIDER

竹村 拓
TAKEMURA Taku
花田 凱成
HANADA Kaisei
松村 恭輔
MATSUMURA Kyosuke
宇佐美 颯基
USAMI Hayaki
白尾 雄大
SHIRAO Yudai

●監督 / SPORTS DIRECTOR

本間 滋
HOMMA Shigeru

■ チーム右京 TEAM UKYO



●選手 / RIDER

ブラデス ベンジャミ
PRADES Benjami
ハッカー ロビー
HUCKER Robbie
クローム サミュエル
CROME Samuel
クレダー レイモンド
KREDER Raymond
武山 晃輔
TAKEYAMA Kosuke

●監督 / SPORTS DIRECTOR

桑原 忠彦
KUWABARA Tadahiko

■ 北海道地域選抜 SELECTED HOKKAIDO



●選手 / RIDER

平田 久仁枝
HIRATA Kunie
奥山 太郎
OKUYAMA Taro
小橋 勇利
KOBASHI Yuri
林 裕也
HAYASHI Yuya
池邊 刀那
IKEBE Katana

●監督 / SPORTS DIRECTOR

坂上 信也
SAKAGAMI Shinya

■ 中央大学 CHUO UNIVERSITY



●選手 / RIDER

奥村 十夢
OKUMURA Tomu
尾形 尚彦
OGATA Takahiko
中村 龍吉
NAKAMURA Tatsuyoshi
山本 哲央
YAMAMOTO Tetsuo
馬越 裕之
UMAKOSHI Hiroyuki

●監督 / SPORTS DIRECTOR

渡辺 耕三郎
WATANABE Kozaburo

■ 日本体育大学 NIPPON SPORT SCIENCE UNIVERSITY



●選手 / RIDER

當原 隼人
TOBARU Hayato
湯浅 健生
YUASA Tatsuki
篠田 幸希
SHINODA Koki
平安山 良希
HENZAN Ryoki
渡邊 翔悟
WATANABE Shogo

●監督 / SPORTS DIRECTOR

西山 哲成
NISHIYAMA Tetsunari

■ 京都大学 KYOTO UNIVERSITY



●選手 / RIDER

福原 周治
FUKUHARA Shuji
向井田 直
MUKAIDA Naoki
辰巳 寛明
TATSUMI Hiroaki
岡本 裕太郎
OKAMOTO Yutaro
新谷 匡史
SHINTANI Masashi

●監督 / SPORTS DIRECTOR

牧 直利
MAKI Naoto

ツール・ド・北海道2019 広報



●2019 ポスター



●2019 ガイドブック



●ウェブサイト トップページ



●ツール・ド・北海道2019ウェブサイトにてダイジェスト及び総集編映像を配信



●Facebookから情報発信



●Twitterから情報発信



●Instagramから情報発信

開会式

2019

OPENING CEREMONY

9/6 Fri 旭川市総合防災センター特設会場

秋晴れの空の下、午前8時20分から旭川市総合防災センター特設会場においてツール・ド・北海道2019の開会式が行われた。今年から競技前の選手の負担軽減のため、優勝カップ返還や選手宣誓などのセレモニーは実施せず式典時間の短縮を図った。海外から5チーム、国内から15チーム総勢99名の選手は3日にわたる熱い戦いに向けて、静かな闘志を燃やしていた。



開会式会場



選手整列



選手整列



来賓



来賓紹介



大会・競技役員



主催者挨拶
山本 隆幸 大会長



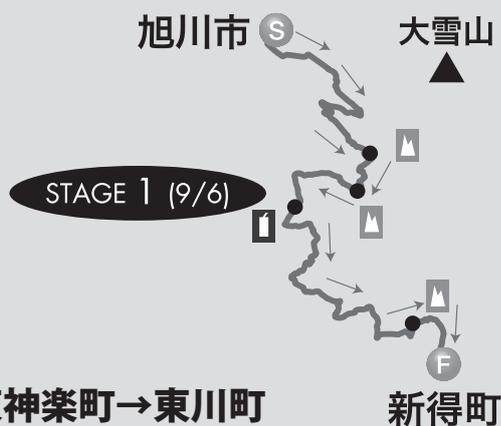
歓迎の挨拶
西川 将人 旭川市長



藤森 信行 チーフコミセール

第1ステージ Stage 1

9/6 Fri Start 9:30
185km Road Race



旭川市(総合防災センター)→東神楽町→東川町
→美瑛町→上富良野町→中富良野町→富良野市
→南富良野町→新得町(保健福祉センター)

■レースの概要

第1ステージは、9時30分に旭川市総合防災センターを20チーム99名がスタート。旭川市7時30分現在、天気晴れ、気温20℃、北北東の風3メートル。3kmのパレード走行の後、9時36分にリアルスタート。9時50分、10km地点を通過したところで15名が抜け出す。10時25分には、先頭から5名ドロップし10名の先頭集団を形成。トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ(MTR)、ザッカランティ フィリップポ(NIP)が追いつき、小野寺(BLZ)がドロップ。11名の先頭集団でKOM1とKOM2を通過、KOM1とKOM2はボウカンパニー ジョアン(NIP)がとった。KOM3に向かう途中で2名ドロップ、KOM3手前で山本元喜(KIN)とザッカランティ フィリップポ(NIP)の2名がアタック。KOM3を過ぎた下りで、ザッカランティ フィリップポ(NIP)が単独先頭となりそのままフィニッシュとなった。(完走82名)

第1位 ザッカランティ フィリップポ(NIP)

第2位 クローム サミュエル(UKO) ビハインド25秒

第3位 マズキ ヌル アミル ファクルディン(TSG) ビハインド25秒



出走サイン



来賓4名によるスタートの合図
後藤貞二 北海道開発局長
山本 進 東神楽町長
今井敏文 上川総合振興局副局長
赤坂修司 北海道経済産業局産業振興課長



総合防災センタースタート



パレード走行



美瑛町 40km付近



KOM1 美瑛キャンプ場入口付近
1位通過 ボウカンパニー ジョアン(NIP)



美瑛町 64.2km付近



KOM 2 十勝岳
1位通過 ボウ カンパニー ジョアン(NIP)



富良野市 120km付近
メイン集団



南富良野町 160km付近



単独で逃げるザッカンティ フィリッポ (NIP)



余裕の笑顔でゴール ザッカンティ フィリッポ (NIP)



新得音頭保存会による新得音頭披露



沿道のファン



歓迎の挨拶
プレゼンター 浜田正利新得町長



個人区間順位
1位 ザッカンティ フィリッポ (NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)
2位 クローム サミュエル(チーム右京)
3位 マズキ ヌル アミル ファクルディン(トンガヌ INC.TSG サイクリングチーム)



個人区間・総合山岳賞
1位 ボウ カンパニー ジョアン
(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)



個人総合ポイント賞
1位 ザッカンティ フィリッポ
(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)



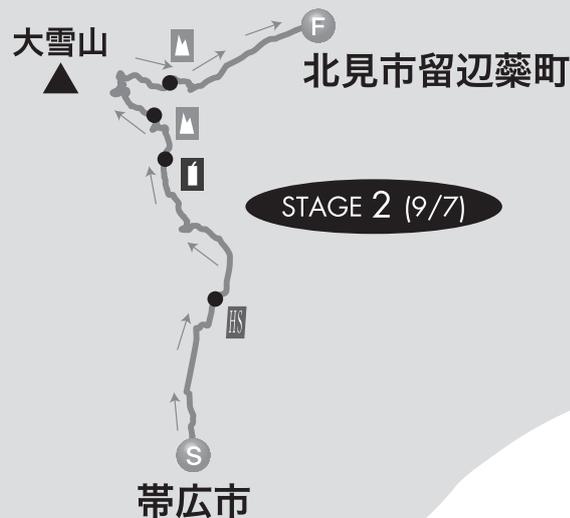
個人総合時間賞
1位 ザッカンティ フィリッポ
(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)

Stage1 競技結果

- 個人区間順位
1位 ザッカンティ フィリッポ(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ) 4:29'59"
2位 クローム サミュエル(チーム右京)
3位 マズキ ヌル アミル ファクルディン(トンガヌ INC.TSG サイクリングチーム)
- 個人区間山岳賞
1位 ボウ カンパニー ジョアン(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ) 23pts
- 個人総合時間順位
1位 ザッカンティ フィリッポ(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ) 4:29'49"
2位 クローム サミュエル(チーム右京)
3位 マズキ ヌル アミル ファクルディン(トンガヌ INC.TSG サイクリングチーム)
- 個人総合ポイント賞
1位 ザッカンティ フィリッポ(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ) 25pts
- 個人総合山岳賞
1位 ボウ カンパニー ジョアン(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ) 23pts

第2ステージ Stage 2

9/7 Sat Start 9:30
174km Road Race



帯広市(帯広競馬場)→音更町→士幌町→上士幌町
→上川町→北見市留辺薬町(旭運動公園)

■レースの概要

第2ステージは、9時30分に帯広市競馬場を20チーム82名がスタート。帯広市9時現在、天気曇り時々雨 気温18.9℃ 東の風0.5m。2.2kmのパレード走行の後、9時35分にリアルスタート。リアルスタート後から、アタック・カウンターアタックの動きがあり、10km地点を通過したところで4名の先頭集団と5名の追走集団を形成する。30km地点を通過したところで、先頭と追走が合流し9名の先頭集団プロトンとのタイム差約4分のアドバンテージとなった。このまま9名の集団でホットスポットを通過、1位はウィギンス クレイグ(STG)。92km地点のKOM1、123km地点のKOM2も9名の先頭集団は変わらず、石橋 学(BGT)が2つのKOMを制した。KOM2を過ぎたところで先頭集団は、4名そして6名と動きながら、フィニッシュ500m手前で抜け出したバセット スティーヴン(WGC)が先頭でフィニッシュした。(完走76名)

- 第1位 バセット スティーヴン(WGC)
- 第2位 石橋 学(BGT) ビハインド6秒
- 第3位 カヴァナー ライアン(STG) ビハインド7秒



第2ステージの先頭に立つリーダージャージの3人



スターター
嶋崎隆則教育委員会教育長



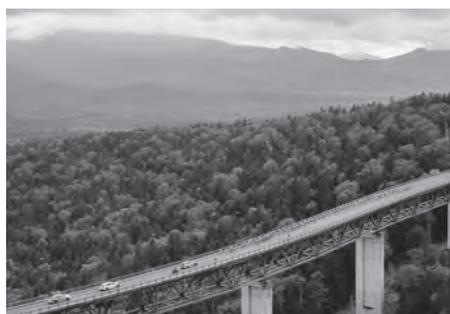
小雨の中、帯広競馬場をスタート



士幌町 28km付近メイン集団



上士幌町 38.6km ホットスポット
1位通過 ウィギンス クレイグ(STG)



上士幌町 90km付近
松見大橋を行くメイン集団



上士幌町 KOM1 三国峠
1位通過 石橋 学(BGT)



北見市 KOM2 石北峠
1位通過 石橋 学(BGT)



北見市 140km付近 メイン集団



両手を挙げてゴール バセット スティーヴン(WGC)



スタート付近の応援団

るべし留青太鼓の皆さまによる演奏



歓迎の挨拶 プレゼンター
浅野目浩美北見市副市長



個人区間順位

- 1位 バセット スティーヴン(ワイルドライフェレージャパンサイクリング/B MAXXIS)
- 2位 石橋 学(チームプリヂェストンサイクリング)
- 3位 カヴァナー ライアン(セントジョージ コンチネンタル サイクリングチーム)



個人区間山岳賞

- 1位 石橋 学
(チームプリヂェストンサイクリング)



個人総合山岳賞

- 1位 ボウ カンパニー ジョアン
(NIPPO-ヴァーニ ファンティーニ-ファイザネ)



個人総合ポイント賞

- 1位 バセット スティーヴン
(ワイルドライフェレージャパンサイクリング/B MAXXIS)



個人総合時間賞

- 1位 ザツカンティ フィリッポ
(NIPPO-ヴァーニ ファンティーニ-ファイザネ)

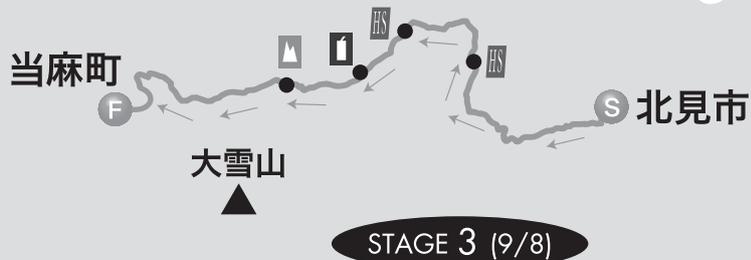
Stage2 競技結果

- 個人区間順位
 - 1位 バセット スティーヴン(ワイルドライフェレージャパンサイクリング/B MAXXIS) 3:57'33"
 - 2位 石橋 学(チームプリヂェストンサイクリング)
 - 3位 カヴァナー ライアン(セントジョージ コンチネンタル サイクリングチーム)
- 個人区間山岳賞
 - 1位 石橋 学(チームプリヂェストンサイクリング) 17pts
- 個人総合時間順位
 - 1位 ザツカンティ フィリッポ(NIPPO-ヴァーニ ファンティーニ-ファイザネ) 8:27'30"
 - 2位 クローム サミュエル(チーム右京)
 - 3位 マズキ ヌル アミル ファクルディン(トンガヌ INC.TSG サイクリングチーム)
- 個人総合ポイント賞
 - 1位 バセット スティーヴン(ワイルドライフェレージャパンサイクリング/B MAXXIS) 26pts
- 個人総合山岳賞
 - 1位 ボウ カンパニー ジョアン(NIPPO-ヴァーニ ファンティーニ-ファイザネ) 23pts

第3ステージ

Stage 3

9/8 Sun Start 9:30
182km Road Race



北見市(市民温水プール)→訓子府町→置戸町→北見市留辺藪町
→遠軽町→上川町→愛別町→当麻町(とうまスポーツランド)

■レースの概要

第3ステージは、9時30分に北見市市民温水プールを20チーム76名がスタート。北見市9時30分現在、天気晴 気温27.2℃ 西の風 1.3m。2kmのパレード走行の後、9時34分にリアルスタート。リアルスタート後から、集団は非常にアクティブ。20km地点を通過するまでは何名かがアタックするも集団に吸収される。10時7分、4名が抜け出し、その後2名が追走、6名の先頭集団となるが、HS1手前で5名は集団に吸収、HS1は岡篤志(BLZ)が制した。その後マンセボ ペレス フランシスコ(MTR)が先頭。木村 圭佑(SMN)、ダットン ジェイ(STG)、増田 成幸(BLZ)が追走し4名の先頭集団でHS2に入る。HS2は木村 圭佑(SMN)が1位通過。ダットン ジェイ(STG)がドロップして、3名の先頭集団でKOMに入り、増田 成幸(BLZ)が1位通過。KOM通過後、木村 圭佑(SMN)がドロップ。残り20km地点通過時点で、先頭2名と集団までのタイム差が一気に縮まる。その後、先頭は吸収され1つの集団となってフィニッシュに向かう。残り1kmで一列棒状。残り500mで横いっぱいになり、ゴールスプリントへ!(完走73名)

第1位 クレダー レイモンド(UKO)

第2位 ロバト デル ヴアレ ファンホセ(NIP) ビハインド0秒

第3位 草場 啓吾(AIS) ビハインド0秒



スタートを待つリーダージャージの3人



スターター
志賀亮司北見市教育委員会教育長



真夏のような暑さの中市民温水プール前からスタート



訓子府町 20km付近
先頭集団



遠軽町 90km付近



遠軽町 99.5km補給地点
白滝ジオパーク



遠軽町 KOM 110km付近 北見峠
1位通過 増田 成幸 (BLZ)



当麻町 167km付近 メイン集団



残り200m 蛇行する先頭集団



ゴールスプリントを制して
クレダー レイモンドがステージ優勝 (UKO)



当麻町蟠龍太鼓保存会の皆さまによる演奏



個人区間順位
1位 クレダー レイモンド (チーム右京)
2位 ロバト デル ヴアレ ファンホセ (NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)
3位 草場 啓吾 (愛三工業レーシングチーム)



個人区間山岳賞
1位 増田 成幸 (宇都宮ブリッツェン)



丸瀬布特別地域ホットスポット賞
1位通過 木村 圭佑 (SMN)



かわいい応援団

Stage 3 競技結果

■個人区間順位

- 1位 クレダー レイモンド (チーム右京) 4:09'59"
- 2位 ロバト デル ヴアレ ファンホセ (NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)
- 3位 草場 啓吾 (愛三工業レーシングチーム)

■個人区間山岳賞順位

- 1位 増田 成幸 (宇都宮ブリッツェン) 7pts

最終表彰式

2019

OVERALL AWARDS CEREMONY

9/8 Sun 当麻町公民館「まとまーる」

ツール・ド・北海道2019の最終表彰式は、国土交通省、北海道、当麻町などから来賓を迎え、当麻町の公民館「まとまーる」で開催された。

今大会の個人総合時間賞は、NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネのザッカントィ フィリッポが3日間グリーンジャージを守りきって獲得した。個人総合ポイント賞は、NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネのロバト デル ヴアレ ファンホセ、個人総合山岳賞は、NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネのボウ カンパニー ジョアンがそれぞれのチャンピオンジャージを獲得した。チーム総合時間賞は、NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネが3日間1位を譲ることなく4年ぶりの優勝となった。U26チーム総合時間賞には、ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXISが獲得した。

チーム総合時間賞は倉内公嘉国土交通省大臣官房審議官、U26チーム総合時間賞は坂敏弘ツール・ド・北海道協会評議員会長、個人総合山岳賞は菊川健一当麻町長、個人総合ポイント賞は佐藤卓也北海道上川総合振興局長からそれぞれ授与された。

最高の栄誉とされる個人総合時間賞と北海道カップは、山本隆幸大会長(ツール・ド・北海道協会理事長)から、ザッカントィ フィリッポ選手(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)に贈られた。

最後に山本隆幸大会長からの主催者挨拶をもって、ツール・ド・北海道2019は幕を下ろした。



菊川健一 当麻町長挨拶



来賓



大会役員



主催者挨拶 山本隆幸 大会長
(公益財団法人ツール・ド・北海道協会理事長)



最終表彰式会場 当麻町公民館「まとまーる」

総合(最終)成績

個人総合時間賞順位

- 1位 ザッカントィ フィリッポ(NIPPO・ヴィーニファンティーニ-ファイザネ) 12:37'34"
- 2位 クローム サミュエル(チーム右京)
- 3位 マズキ ヌル アミル ファクドゥン(トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム)
- 4位 トルビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ(マトリックス/パワータグ)
- 5位 山本 元喜(キナンサイクリングチーム)
- 6位 徳田 優(チームプリチストンサイクリング)
- 7位 小出 樹(京都産業大学)
- 8位 ボウ カンパニー ジョアン(NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)
- 9位 パセツ スティーヴン(ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS)
- 10位 ロバト デル ヴアレ ファンホセ(NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)

個人総合ポイント賞順位

- 1位 ロバト デル ヴアレ ファンホセ(NIPPO・ヴィーニファンティーニ-ファイザネ) 37pts
- 2位 クレダール レイモンド(チーム右京)
- 3位 クローム サミュエル(チーム右京)

個人総合山岳賞順位

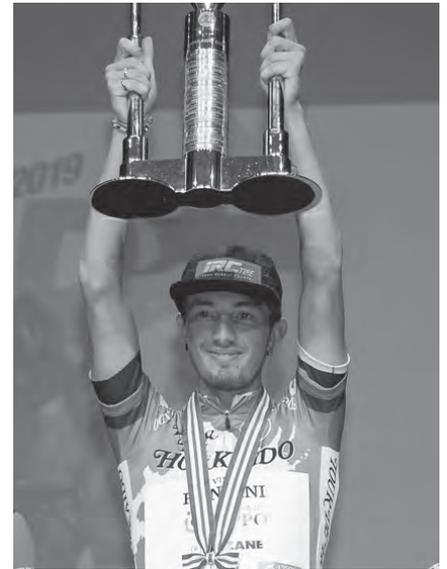
- 1位 ボウ カンパニー ジョアン(NIPPO・ヴィーニファンティーニ-ファイザネ) 23pts
- 2位 山本 元喜(キナンサイクリングチーム)
- 3位 石橋 学(チームプリチストンサイクリング)

団体総合時間賞順位

- 1位 NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ 37:55'28"
- 2位 チーム右京
- 3位 トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム

U26団体総合時間賞順位

- 1位 ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS 37:58'41"
- 2位 セントジョージンチネンタルサイクリングチーム
- 3位 那須ブラーゼン



個人総合時間賞

- 1位 ザッカントー フィリッポ(NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)
- 2位 クローム サミュエル(チーム右京)
- 3位 マズキ ヌル アミル ファクルディン(トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム)

個人総合優勝

ザッカントー フィリッポ
(NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)



個人総合山岳賞

ボウ カンパニー ジョアン
(NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)



個人総合ポイント賞

ロバト デル ヴアレ ファンホセ
(NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)



喜びのインタビュー

ザッカントー フィリッポ
(NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ)



団体総合時間賞

NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ



U 26団体総合時間賞

ワイルドライフ ジェネレーション プロサイクリング P/B MAXXIS

2019 最終成績

FINAL RESULTS



個人総合時間賞

Pl.	Num	選手名	チーム名	Total	Behind
1	115	ザッカンティ フィリップ	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	12:37'34"	0'00"
2	133	クローム サミュエル	チーム右京	12:37'58"	0'24"
3	22	マズキ ヌル アミル ファクルディン	トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム	12:38'00"	0'26"
4	12	トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ	マトリックスパワータグ	12:38'04"	0'30"
5	4	山本元喜	キナンサイクリングチーム	12:38'04"	0'30"
6	93	徳田優	チームブリヂストンサイクリング	12:38'09"	0'35"
7	64	小出樹	京都産業大学	12:38'09"	0'35"
8	114	ボウ カンパニー ジョアン	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	12:38'27"	0'53"
9	162	バセット スティーヴン	ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS	12:39'04"	1'30"
10	113	ロバト デル ヴアレ フアンホセ	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	12:39'09"	1'35"
11	42	草場啓吾	愛三工業レーシングチーム	12:39'13"	1'39"
12	35	岡篤志	宇都宮ブリッツェン	12:39'14"	1'40"
13	11	マンセボ ベレス フランシスコ	マトリックスパワータグ	12:39'15"	1'41"
14	3	グアルディオラ サルバドール	キナンサイクリングチーム	12:39'16"	1'42"
15	72	カヴァナー ライアン	セントジョージンチネンタルサイクリングチーム	12:39'16"	1'42"
16	132	ハッカー ロビー	チーム右京	12:39'17"	1'43"
17	131	ブラデス ベンジャミ	チーム右京	12:39'17"	1'43"
18	52	木村圭佑	シマノレーシングチーム	12:39'17"	1'43"
19	31	増田成幸	宇都宮ブリッツェン	12:39'21"	1'47"
20	145	片桐東次郎	日本大学	12:39'22"	1'48"
21	71	パーウィック セバステアン	セントジョージンチネンタルサイクリングチーム	12:39'22"	1'48"
22	165	ガリクソン フィン	ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS	12:39'22"	1'48"
23	24	バトムフ マラル エルデネ	トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム	12:39'22"	1'48"
24	151	フォン カーホー	HKSI プロサイクリングチーム	12:39'22"	1'48"
25	32	鈴木譲	宇都宮ブリッツェン	12:39'22"	1'48"
26	73	ダットン ジェイ	セントジョージンチネンタルサイクリングチーム	12:39'22"	1'48"
27	91	石橋学	チームブリヂストンサイクリング	12:39'23"	1'49"
28	23	モレイドリュー	トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム	12:39'36"	2'02"
29	83	中村魁斗	那須ブラーゼン	12:39'42"	2'08"
30	25	ゴー チュン ファン	トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム	12:39'51"	2'17"
31	1	ガルシア マルクス	キナンサイクリングチーム	12:39'52"	2'18"
32	45	モニエ ダミアン	愛三工業レーシングチーム	12:39'59"	2'25"
33	2	ルバトマ	キナンサイクリングチーム	12:40'04"	2'30"
34	161	ボードマン サミュエル	ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS	12:40'05"	2'31"
35	191	福原周治	京都大学	12:43'20"	5'46"
36	5	新城雄大	キナンサイクリングチーム	12:44'00"	6'26"
37	85	柴田雅之	那須ブラーゼン	12:46'55"	9'21"
38	112	伊藤雅和	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	12:50'39"	13'05"
39	94	孫崎大樹	チームブリヂストンサイクリング	12:53'11"	15'37"
40	171	當原隼人	日本体育大学	12:53'16"	15'42"
41	53	湊諒	シマノレーシングチーム	12:53'18"	15'44"
42	101	奥村十夢	中央大学	12:53'36"	16'02"
43	134	クレダー レイモンド	チーム右京	12:54'28"	16'54"
44	111	初山翔	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	12:54'36"	17'02"
45	135	武山晃輔	チーム右京	12:55'32"	17'58"
46	92	平塚吉光	チームブリヂストンサイクリング	12:57'12"	19'38"
47	82	西尾勇人	那須ブラーゼン	13:00'08"	22'34"
48	152	チョイ ヒウフォン	HKSI プロサイクリングチーム	13:00'34"	23'00"
49	74	リアドン コナー	セントジョージンチネンタルサイクリングチーム	13:01'17"	23'43"
50	144	依田翔大	日本大学	13:01'17"	23'43"
51	75	ウィギンス クレイグ	セントジョージンチネンタルサイクリングチーム	13:01'37"	24'03"
52	15	安原大貴	マトリックスパワータグ	13:02'03"	24'29"
53	84	西尾憲人	那須ブラーゼン	13:02'54"	25'20"
54	41	岡本隼	愛三工業レーシングチーム	13:02'54"	25'20"
55	125	池邊刀那	北海道地域選抜	13:05'40"	28'06"
56	44	住吉宏太	愛三工業レーシングチーム	13:06'19"	28'45"
57	21	マツ アミン モハマド シャルウ	トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム	13:06'33"	28'59"
58	33	堀孝明	宇都宮ブリッツェン	13:07'26"	29'52"
59	55	黒枝咲哉	シマノレーシングチーム	13:07'41"	30'07"
60	95	今村駿介	チームブリヂストンサイクリング	13:07'41"	30'07"
61	123	小橋勇利	北海道地域選抜	13:07'41"	30'07"
62	54	横山航太	シマノレーシングチーム	13:07'46"	30'12"
63	181	竹村拓	明治大学	13:07'54"	30'20"
64	13	フェルナンデス カサソラ アイラン	マトリックスパワータグ	13:07'57"	30'23"
65	62	藤田俊輔	京都産業大学	13:08'00"	30'26"
66	192	向井田直	京都大学	13:08'00"	30'26"
67	143	三澤優樹	日本大学	13:08'06"	30'32"
68	104	山本哲央	中央大学	13:08'35"	31'01"
69	141	鵜沼利久	日本大学	13:11'33"	33'59"
70	142	栗原悠	日本大学	13:14'26"	36'52"
71	194	岡本裕太郎	京都大学	13:17'24"	39'50"
72	153	ホーバー	HKSI プロサイクリングチーム	13:17'24"	39'50"
73	124	林裕也	北海道地域選抜	13:21'38"	44'04"

個人総合ポイント賞

Pl.	Num	選手名	チーム名	Total
1	113	ロバト デル ヴァレ ファンホセ	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	37
2	134	クレダー レイモンド	チーム右京	33
3	133	クローム サミュエル	チーム右京	29
4	22	マズキ ヌル アミル ファクルディン	トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム	27
5	162	バセット スティーヴン	ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS	26
6	115	ザツカンティ フィリップ	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	25
7	35	岡 篤 志	宇都宮ブリッツェン	24
8	42	草 場 啓 吾	愛三工業レーシングチーム	23
9	132	ハッカー ロビー	チーム右京	23
10	75	ウィギンス クレイグ	セントジョージコンチネンタルサイクリングチーム	20
11	91	石 橋 学	チームブリヂストンサイクリング	20
12	94	孫 崎 大 樹	チームブリヂストンサイクリング	18
13	72	カヴァナー ライアン	セントジョージコンチネンタルサイクリングチーム	17
14	12	トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ	マトリックスパワータグ	15
15	114	ボウ カンパニー ジョアン	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	14
16	31	増 田 成 幸	宇都宮ブリッツェン	13
17	64	小 出 樹	京都産業大学	12
18	4	山 本 元 喜	キナンサイクリングチーム	11
19	71	バーウィック セバステアン	セントジョージコンチネンタルサイクリングチーム	10
20	55	黒 枝 咲 哉	シマノレーシングチーム	10
21	93	徳 田 優	チームブリヂストンサイクリング	9
22	52	木 村 圭 佑	シマノレーシングチーム	8
23	11	マンセボ ヘレス フランシスコ	マトリックスパワータグ	8
24	123	小 橋 勇 利	北海道地域選抜	8
25	131	ブラデス ベンジャミ	チーム右京	6
26	3	グアルディオラ サルバドール	キナンサイクリングチーム	4
27	53	湊 諒	シマノレーシングチーム	2
28	145	片 桐 東次郎	日本大学	1

個人総合山岳賞

Pl.	Num	選手名	チーム名	Total
1	114	ボウ カンパニー ジョアン	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	23
2	4	山 本 元 喜	キナンサイクリングチーム	19
3	91	石 橋 学	チームブリヂストンサイクリング	17
4	31	増 田 成 幸	宇都宮ブリッツェン	13
5	115	ザツカンティ フィリップ	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	10
6	71	バーウィック セバステアン	セントジョージコンチネンタルサイクリングチーム	10
7	132	ハッカー ロビー	チーム右京	9
8	15	安 原 大 貴	マトリックスパワータグ	8
9	22	マズキ ヌル アミル ファクルディン	トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム	6
10	72	カヴァナー ライアン	セントジョージコンチネンタルサイクリングチーム	6
11	162	バセット スティーヴン	ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS	5
12	11	マンセボ ヘレス フランシスコ	マトリックスパワータグ	5
13	85	柴 田 雅 之	那須ブラーゼン	5
14	64	小 出 樹	京都産業大学	4
15	133	クローム サミュエル	チーム右京	3
16	93	徳 田 優	チームブリヂストンサイクリング	3
17	52	木 村 圭 佑	シマノレーシングチーム	3
18	12	トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ	マトリックスパワータグ	2
19	73	ダットン ジェイ	セントジョージコンチネンタルサイクリングチーム	2
20	75	ウィギンス クレイグ	セントジョージコンチネンタルサイクリングチーム	2
21	2	ルバトマ	キナンサイクリングチーム	1

団体総合時間賞

Pl.	チーム名	Total	Behind
1	NIPPO - ヴィーニ ファンティーニ-ファイザネ	37:55'28"	
2	チーム右京	37:56'38"	1'10"
3	トレンガヌ INC. TSG サイクリングチーム	37:57'02"	1'34"
4	キナンサイクリングチーム	37:57'13"	1'45"
5	セントジョージコンチネンタルサイクリングチーム	37:58'00"	2'32"
6	宇都宮ブリッツェン	37:58'01"	2'33"
7	ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS	37:58'41"	3'13"
8	チームブリヂストンサイクリング	38:05'14"	9'46"
9	マトリックスパワータグ	38:09'57"	14'29"
10	愛三工業レーシングチーム	38:12'32"	17'04"
11	那須ブラーゼン	38:19'53"	24'25"
12	シマノレーシングチーム	38:39'53"	44'25"
13	日本大学	38:41'42"	46'14"
14	HKSI プロサイクリングチーム	38:57'20"	1:01'52"
15	京都大学	39:08'44"	1:13'16"
16	北海道地域選抜	39:34'59"	1:39'31"
-	京都産業大学		
-	中央大学		
-	日本体育大学		
-	明治大学		

U26団体総合時間賞

Pl.	チーム名	Total	Behind
1	ワイルドライフジェネレーションプロサイクリング P/B MAXXIS	37:58'41"	
2	セントジョージコンチネンタルサイクリングチーム	38:13'21"	14'40"
3	那須ブラーゼン	38:19'53"	21'12"
4	チームブリヂストンサイクリング	38:39'01"	40'20"
5	日本大学	38:41'42"	43'01"
6	京都大学	39:08'44"	1:10'03"

ツール・ド・北海道 コース全体図



昨年地震で中止

国内最大規模の国際自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」が9月6～8日に開催される。昨年は開催日前日に発生した北海道地震で中止となったため、33回目の今回は、昨年に予定していた大雪山系と十勝岳連峰を舞台にしたコースが設定さ

ツール・ド・北海道 来月開催

大会には国内外20チームの選手たち100人が参加予定。道北・道東の4市16町で総走行距離541キロで争う。初日は旭川市から新得町へのコースで、大会期間中で最長の185キロを走行する。2日目は

山岳主体コース

帯広市から北見市に向かう。道内の国道の峠で最も高い三国峠が1987年の大会開始以来初めてコースに設定されたほか、石北峠も越える。最終日は北見市から当麻町を目指し、北見峠を越えて180キロを走る。最終日には、距離で三つにクラス分けした市民レースも開かれる。参加者たちは選手たちと同じコースを走って国際レースを体感する。

●8/23 読売新聞

ツール・ド・北海道9月6日開幕 大雪山系巡る541キロ

ツール・ド・北海道2019コース図



自転車

ロードレース「ツール・ド・北海道2019」(ツール・ド・北海道協会)は、本自転車競技連盟主催、北海道新聞社特別協力の「概要」が23日、発表された。9月6日から3日間、大雪山系を巡る道北や道東のコース計541キロが舞台となる。

33回目の今回は国内外の20チームが出場予定で、4市16町が会場となる。道内の国道で最も標高が高い三国峠(1139m)や石北峠(1050m)など千キロ超の峠を組み込んだ山岳コースで、胆振東部地震で中

●4/24 北海道新聞

9月 ツール・ド・北海道

5年ぶり十勝舞台 三国・石北峠越え

【札幌】ツール・ド・北海道 6日の第1ステージは旭川市23日、国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2019」の大会概要を発表した。9月6～8日に十勝の1市4町(帯広、音更、新得、士幌)を含む道北・道東地域の計4市16町で開催。総走行距離は541キロ。パレード7市(帯広、音更、新得、士幌)を含む。大会初の三国・石北峠越え、山岳地帯のコースが特徴で、ツアー展開が予想される。昨年は大会前日の9月6日に発生した胆振東部地震の影響で初めて中止された。今年は前回予定のコース(ほぼ同じ)で、十勝を道東地域での開催は5年

●4/24 十勝毎日新聞

1市3町「見応えあるコース」

ツール・ド・北海道 北見市に概要報告



「ツール・ド・北海道2019」が9月6日に開幕するのを前に、ツール・ド・北海道協会の山本理事長(中央)ら

また、同協会の古藤敏之企画部長(63)は「旭川紋別自動車道の延伸で国道7号や333号の交通量が減り、このようなコース設定が可能になった」と説明し、「大会当日の好天を願う」とレースの成功に期待を寄せた。

(山田健裕)

●8/23 北海道新聞

北見市のほか、訓子府町、置戸町、遠軽町の1市3町で熱戦が繰り広げられる。山本理事長は「石北峠や北見峠など高低差の大きいコースで見応えがある。駆け抜ける隊列の姿を見て、自転車の素晴らしさや楽しさが伝われば」と話した。

ツール・ド・北海道 韓国チーム出場辞退
 9月6日に開幕する「ツール・ド・北海道2019」で、韓国のセミプロチーム「Lマサイクリングチーム」が出場を辞退していたことが28日、公益財団法人ツール・ド・北海道協会への取材で分かった。

同協会に20日、チームから「近ごろの政治的、社会的状況から、大韓民国政府の意向に従う」という趣旨の英文の電子メールが届いた。同チームは昨年もエントリしたが、大会は胆振東部地震の影響で中止された。

同チームの辞退で一つ空いた出場枠には、日本学生自転車競技連盟ロードチームランキング（8月28日現在）10位の京都大の出場が決まっている。（相武大輝）

●8/29 北海道新聞



第33回 ツール・ド・北海道2019

北の大地で繰り広げられる疾走ドラマ

9/6 fri → 8 sun

交通規制のお知らせ

ツール・ド・北海道 2019交通規制のお知らせ

9/6(金) 第1ステージ(距離105km)

9/7(土) 第2ステージ(距離174km)

9/8(日) 第3ステージ(距離182km)

各日、各区間の交通規制の概要を掲載しています。詳細は各日のお知らせをご覧ください。

●9/5 北海道新聞



第33回 ツール・ド・北海道2019

北の大地で繰り広げられる疾走ドラマ

9/6 fri → 8 sun

交通規制のお知らせ

ツール・ド・北海道 2019交通規制のお知らせ

9/6(金) 第1ステージ(距離105km)

9/7(土) 第2ステージ(距離174km)

9/8(日) 第3ステージ(距離182km)

各日、各区間の交通規制の概要を掲載しています。詳細は各日のお知らせをご覧ください。

●9/5 朝日新聞



第33回 ツール・ド・北海道2019

北の大地で繰り広げられる疾走ドラマ

9/6 fri → 8 sun

交通規制のお知らせ

ツール・ド・北海道 2019交通規制のお知らせ

9/6(金) 第1ステージ(距離105km)

9/7(土) 第2ステージ(距離174km)

9/8(日) 第3ステージ(距離182km)

各日、各区間の交通規制の概要を掲載しています。詳細は各日のお知らせをご覧ください。

●9/5 読売新聞



北見までの第2ステージで帯広競馬場をスタートする選手たち（7日午前9時半。金野和彦撮影）

④ 動画は電子版で

地震で昨年は中止 ツール・ド・北海道 十勝路に銀輪 82選手疾走

国内最大級の自転車のステージレース、第33回ツール・ド・北海道（ツール・ド・北海道協会主催）の第2ステージ（7月4日）が7日午前9時半、帯広競馬場前をスタート。82選手がファンらに見守られながら、北見市留辺蘂町のフィニッシュ地点に向かって十勝を疾走した。

前日に旭川

（15面に関連記事）



2年ぶりの復活大会。一斉にスタートする選手たち

2年分の思いを込めて 道産子戦士快走



大会で快走を誓う道産子戦士（左から）被災直後の厚真町を巡回した警察官・林 道内で被災した西尾廉人（左）と兄・勇人

●9/7 スポーツニッポン

ザツカンテイV 第1S

ツール・ド・北海道第2ステージ、7月4日、帯広競馬場前をスタートした。82選手がファンらに見守られながら、北見市留辺蘂町のフィニッシュ地点に向かって十勝を疾走した。昨年の大会は胆振東部地震で中止となった。今年は、昨年実施できなかった道北・道東を巡るコースに再挑戦して実施している。

発生直後の厚真町を巡回した警察官が被災した兄弟が、2年分の思いを込めて快走した。被災直後の厚真町を巡回した警察官・林 道内で被災した西尾廉人（左）と兄・勇人

●9/7 北海道新聞

●9/7 十勝毎日新聞

ツール・ド・北海道開幕
今年で33回目となる自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」が6日、開幕した。旭川市をスタートし、3日かけて8日に当麻町でゴールする。昨年は胆振東部地震が開賽前日に発生し、中止となっていた。参加したのは国内外の20チーム。

●9/7 朝日新聞

銀輪猛スピード 十勝へようこそ

「ツール・ド」第1S 新得でゴール



【新得】6日に開幕した国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2019」は、第1ステージのゴール地点となった

ゴール前の直線コースを全力で駆け抜ける選手に声援を送る沿道の町民ら

新得町に到着した。沿道に

集まった町民らが、猛スピードで駆け抜ける銀輪の選手たちに声援を送った。大会は国内外の20チーム、99人が出場。8日までの3日間、道北・道東の4市16町を舞台に3ステージ計534.4キロを競う。

この日は旭川市と新得町を結ぶ180.2キロで行われ、選手が十勝岳や狩勝峠を越えて激しい戦いを繰り広げた。午後2時すぎ、選手たちが町保健福祉センター前に次々とゴールした。

観戦した町内の主婦ワイルソン・弘子さん(36)は「(集団スプリントの)迫力とスピードに感動しました。旭川から来た自営業佐々木順久さん(66)は「体力きりぎりの戦いが魅力」とゴールする選手たちに熱い視線を注いでいた。

表彰式の前には新得音頭保存会のメンバーが踊りを披露したほか、区間賞に輝いた選手らにそば焼酎などの特産品が贈られた。

7日の第2ステージは午前9時30分に帯広競馬場前を出発。北見市まで180.0キロのコースで行われる。

(菊地信一郎)

●9/7 北海道新聞(十勝・帯広版)

国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」が6日、旭川市などで開幕した。昨年は6月6日の胆振東部地震で7、9日に中止していた大会を中止しており、2年ぶりの開催。雄大な大雪山系を舞台にした総走行距離約541キロの過酷なコースを3日間にわたって走らなければならない。

33回目の今年、イタリアやオーストラリアなど海外5チーム、国内15チームの計約100人が出場。レースは十勝岳中腹(1050m)が盛り、丘陵地帯が美しい富良野市な

昨年中止のツール・ド・北海道

2年ぶり レース開幕

どを経由して南下。標高1000mを超える三国峠や石北峠を疾走して、ゴールの当麻町を目指す。コース中、上る高さは計約5000mに及ぶ。

青空の下、合図に合わせて選手たちが勢いよくペダルをこぎ出すと、沿道の観客から拍手と歓声が上がった。友人2人と訪れた東京都柏江市の専門学校生、土佐優輔さん(19)は「二気な真剣な表情に変わる選手たちを見て激しい戦いの始まりを感じた。厳しい山岳コースでのせめぎ合いが楽しみ」と興奮した様子だった。



「ツール・ド・北海道」が開幕し、一気にスタートする選手たち。旭川市で

●9/7 毎日新聞

◇自転車 ツール・ド・北海道第2日(7日、帯広市・北見市)
 …第2ステージ…
 △個人区間順位 ①ステイブ・ファン・デル・リンデ(オランダ) 57分39秒
 ②カバネー(オーストラリア、セントジョージ) 57分40秒
 △団体区間順位 ①ワイルドライフ・エネレージ・P/B/MAXXIS(米国) 11時間52分55秒
 ②ナーム・プリチストン 11時間53分1秒
 ③セントジョージ・コンチネンタル(オーストラリア) 11時間53分2秒
 ④北海道選抜 12時間26分1秒
 …通算成績…
 ◇個人▽総合時間順位
 ①ワイルドライフ・エネレージ・P/B/MAXXIS(米国) 11時間52分55秒
 ②ナーム・プリチストン 11時間53分1秒
 ③セントジョージ・コンチネンタル(オーストラリア) 11時間53分2秒
 ④北海道選抜 12時間26分1秒

◇個人▽総合時間順位
 ①ワイルドライフ・エネレージ・P/B/MAXXIS(米国) 11時間52分55秒
 ②ナーム・プリチストン 11時間53分1秒
 ③セントジョージ・コンチネンタル(オーストラリア) 11時間53分2秒
 ④北海道選抜 12時間26分1秒
 …通算成績…
 ◇個人▽総合時間順位
 ①ワイルドライフ・エネレージ・P/B/MAXXIS(米国) 11時間52分55秒
 ②ナーム・プリチストン 11時間53分1秒
 ③セントジョージ・コンチネンタル(オーストラリア) 11時間53分2秒
 ④北海道選抜 12時間26分1秒

●9/8 道新スポーツ

バセット区間V 第2日

自転車

ツール・ド・北海道2019(7日・帯広市―北見市留辺蘂町) 第2日は第2ステージ(17.2キロ)を行い、ステイブ・バセット(米國、ワイルドライド)が3時間57分33秒で区間優勝した。個人総合は、6日の第1ステージを制したフィリップ・ザッカントイ(イタリヤ、NIPPPOヴィニリアンティニフアイザネ)が8時間27分30秒で首位を守った。

人の先頭集団が逃げ、残り1キロでバセットがスパートして競り勝った。

最終日は北見市民温水プール前を出発し、上川管内当麻町とろまスポーツランドでフィニッシュする。

第2ステージ:
 △個人区間順位 ①ステイブ・バセット(米國、ワイルドライド)3時間57分33秒②右橋(チームブリヂストン)3時間57分39秒③カバナー(オーストラリア、セントジョージコンチネンタル)3時間57分40秒
 △団体区間順位 ①ワイルドライド(米國)11時間52分55秒②チームブリヂストン11時間53分1秒③セントジョージコンチネンタル(オーストラリア)11時間53分2秒
 △北海道選抜12時間26分1秒



通算成績:

△個人△総合時間順位 ①フィリップ・ザッカントイ(イタリヤ、NIPPPOヴィニリアンティニフアイザネ)8時間27分30秒②クローム(オーストラリア、チーム右京)8時間27分59秒③マスキ(マレーシア、トレンガヌI.N.C.T.S.G.)8時間28分1秒
 △総合時間順位 ①ステイブ・バセット26分22秒②サッカントイ25分25秒③右橋25分26秒④山本(キナナン)19分23秒⑤山本(キナナン)19分23秒
 △団体△総合時間順位 ①NIPPPOヴィニリアンティニフアイザネ(イタリヤ)25時間25分10秒②チーム右京25時間26分41秒③キナナン25時間26分41秒④チーム右京25時間26分41秒
 △個人総合時間最上位の順位による

▼終盤スパートで奪得
 バセットは写真がスパリント勝負を制した。残り1キロ付近でスパート。山岳賞などは狙わず、山で脚をためていた」という会心の勝利だった。

前日の第1ステージは区間15位。「消極的なレースになってしまった」という悔いがあったから、この日は逃げ集団に加わってレースを進めることで、終盤の好機をうかがった。個人総合はトップと1分

30秒差の9位。「最終ステージも勝って個人総合優勝したい」と言う。山岳と平地がバランス良く続くコースはオールラウンダーのバセットが得意とするところだ。(相武大輝)

●9/8 北海道新聞

△自転車 ☆ツール・ド・北海道第2日(7日、帯広市―北見市)1位と日本選手最上位)
 △第2ステージ(17.2キロ)
 ①ステイブ・バセット(米國、ワイルドライド)3時間57分33秒②右橋(チームブリヂストン)3時間57分39秒③カバナー(オーストラリア、セントジョージコンチネンタル)3時間57分40秒
 △団体△総合時間順位 ①NIPPPOヴィニリアンティニフアイザネ(イタリヤ)25時間25分10秒②チーム右京25時間26分41秒③キナナン25時間26分41秒④チーム右京25時間26分41秒

●9/8 日刊スポーツ

9/6(金)

ツール・ド・北海道 2019 開催に伴い 交通規制にご協力をお願いします

国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車ステージレース「ツール・ド・北海道 2019」が9月6日から3日間、道北・道東20市町で開催され541kmを走破します。
東神楽町を通過するのは、6日(金)の第1ステージで、旭川市総合防災センター(旭川市東光)をスタートし、東神楽町市比内から積丹市へ入ります。中宇都宮や栗駒牛、白金温泉などを経て上富良野町へ抜け、積丹町へゴールする185kmのコースです。
道内から20チーム100人の選手が出場を予定しています。一次選手の迫力あるレースを間近で観戦できる機会ですので、公道から応援をお願いします。

交通規制について

競技車両の通過時間には、交通規制が行われます。ご理解のうえ、現場の警察官の指示に従ってください。競技車両に同行する車両は、後方を追従して走行できますが、車列の追い越しや割り込みはできません。競技車両に対向する車両は、支障がない限り通行できますが、競技自転車は後述しているときは、直進するなど前後の安全にご協力ください。その際、右折や横断、転回にはできませんので注意してください。また、警察官が予想されるので、規制時間帯を避けるか迂回されるなど、交通の混雑緩和にご協力をお願いします。

交通規制箇所および時間

①対向車両通行止 道直 213号(朝川内郵便局前～旧志比内駐在所) [9時50分から10時10分ごろ]	②対向車両通行止 道直(116号(上宇都宮橋南～積丹町)) [10時5分から10時25分ごろ]
③対向車両通行止 道崎～中宇都宮 [10時10分から10時45分ごろ]	④全面車両通行止 積丹牛上橋南～道崎 [10時20分から10時50分ごろ]
⑤対向車両通行止 道直 291号(上富良野町旭野～道直966号) [10時40分から11時45分ごろ]	

問合せ/ツール・ド・北海道 2019 実行委員会 ☎ 011-222-5922
大会概要やコースなど詳しくは公式サイトをご覧ください。(http://www.tour-de-hokkaido.jp/)



●広報びえい 9月号

ツール・ド・北海道2019開催及び交通規制のお知らせ

国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車ステージレース「ツール・ド・北海道2019」は、昨年の地震の影響で中止となったコースに再度チャレンジします。海外及び国内から20チーム・100人の選手が旭川市を皮切りに、道北・道東の20市町、541kmを3日間にわたって走破します。一次選手の迫力あるレースを間近で観戦しませんか! 激走する選手に浴びながら熱い声援をおくってみませんか!

【第1ステージ】9月6日(金)100kmコース(185km) 旭川市総合防災センター 8:30～新穂町保健福祉センター F1356ころ
【第2ステージ】9月7日(土)100kmコース(174km) 東神楽町東光郵便局 8:30～北見市総合防災センター F1342ころ
【第3ステージ】9月8日(日)100kmコース(182km) 北見市東光郵便局 8:30～道東町25kmスポーツランド F1352ころ

【旭川レース】10月7日(土)60km(トライアル・2km) 旭川市石川河川動物特設コース 8:12:00 - F15452ころ
【市東レース】10月9日(日)60kmコース A)クラス127km 道東町ちのちホール 8:30:00 - F1157～1220
B)クラス 99km 道東町ちのちホール 8:30:00 - 旭川市総合防災センター F1213～1216
C)クラス 79km 上川町朝日市民センター 8:30:00 - F1932～937



競技車両の通過時間には、交通規制が行われます。ご理解のうえ、現場の警察官の指示に従ってください。競技車両に同行する車両は、後方を追従して走行できますが、車列の追い越しや割り込みはできません。競技車両に對向する車両は、支障がない限り通行できますが、競技自転車は後述しているときは、直進するなど前後の安全にご協力ください。その際、右折、横断、転回にはできませんので注意してください。また、警察官が予想されるので、規制時間帯を避けるか迂回されるなど、交通の混雑緩和にご協力をお願いします。

問合せ/ツール・ド・北海道 2019 実行委員会 ☎ 011-222-5922 http://www.tour-de-hokkaido.jp

13 すてきな笑顔と花の姿もひかから 令和2(2019)年・9月

●東神楽 9月号

ツール・ド・北海道(自転車競技)に伴い交通規制が実施されます

旭川市(旭川市)・道北・道東20市町のコースの一部として、旭川市を皮切りに、道北・道東の20市町、541kmを3日間にわたって走破します。一次選手の迫力あるレースを間近で観戦しませんか! 激走する選手に浴びながら熱い声援をおくってみませんか!

【第1ステージ】9月6日(金)100kmコース(185km) 旭川市総合防災センター 8:30～新穂町保健福祉センター F1356ころ
【第2ステージ】9月7日(土)100kmコース(174km) 東神楽町東光郵便局 8:30～北見市総合防災センター F1342ころ
【第3ステージ】9月8日(日)100kmコース(182km) 北見市東光郵便局 8:30～道東町25kmスポーツランド F1352ころ

●広報ひがしかわ 9月号

ツール・ド・北海道2019 開催当日の交通規制情報はツール・ド・北海道ホームページで確認してください。

【第1ステージ】9月6日(金)、旭川市～新穂町
【第2ステージ】9月7日(土)、東神楽町～北見市
【第3ステージ】9月8日(日)、北見市～当麻町

ツール・ド・北海道(011-222-5922)

●広報おびひろ 9月号

9月のまちの行事予定

日曜	行事	開放型サロン
6	広帯9月号配布 11:50 ツール・ド・北海道 13:30 ふなわつ運動教室(改善センター)	AM:PM
7	中富良野中学校学校祭	
8		
9		AM:PM
10		予
11		AM:PM
12		AM:PM
13	9月分粗大ごみ受付最終日 10:00 全町敬老会(改善センター)	AM:PM

●なかまーる相模堂
一 一般健康相談 8時～12時
母 母子健康相談 10時～15時

●なかまーる健康ホール
乳 乳児健康相談 10時15分～12時

●開放型サロン「なかまーる」
なかまーる健康ホール

●広報なかひらの 9月号

CALENDAR 9月 生活ごよみ

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

●広報あいづ 9月号

9月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

●広報おとふけ 9月号



駆け抜ける銀輪の選手たち



国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」の第2ステージが行われました。この日は帯広競馬場前をスタートし、北見市まで174kmのコースに82人の選手が参加し町内を疾走しました。沿道から旗を振って応援した阿部立さん(緑陽台仲区西)は「コーナーが直角なのに上手に駆け抜ける技術に感動しました。」と熱い視線で選手を応援していました。

●広報おとふけ 10月号



▶銀輪 富良野盆地を駆ける

ツール・ド・北海道2019第1ステージ 9月6日(金)

国際ロードレース「ツール・ド・北海道」が、道北や道東のコースを舞台に、3日間わたって開催されました。第1ステージ(185km・旭川市～新得町)では、参加した20チーム・約100人の選手が4年ぶりに富良野盆地を駆け抜けました。市内コースでは、ふるの体育協会の加盟団体、スポーツ推進委員、交通指導員など43人が、コース整理員として協力しました。

●広報ふるの 10月号

ツール・ド・北海道2019

迫力のレース

自転車ロードレース大会「ツール・ド・北海道2019」が9月6日から8日にかけて道北・道東地方の20市町村を通過し、最終日の8日に、選手たちが愛別町内を駆け抜けました。

ゴールの当麻町を目指し、白熱したレースが繰り広げられる中、沿道に訪れた方々は、すぐ目の前を通過していく選手たちに声援を送りながら観戦していました。

季節外れの暑さの中での開催でしたが、観戦者も暑さを忘れる大興奮のレースでした。



●広報あいべつ 10月号



ツール・ド・北海道2019

残暑の中、北見市を疾走

9月7日・8日、国内最大級の自転車ステージレース「ツール・ド・北海道2019」が道北・道東地域で開催され、北見市は第2・第3ステージの舞台となりました。

第2ステージは、帯広市から留辺築町体育館までの区間、第3ステージでは、北見市民温水プールから留辺築を經由して当麻町までのレースが行われ、沿道から大きな声援が送られました。



●広報きたみ 10月号



迫力あるレースを間近で

ツール・ド・北海道2019

9月6日から8日までの3日間、国内最大級のステーション制自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2019」が開催されました。このうち8日には、遠軽町も激戦の舞台の一つとなり、市民レース大会では、Aクラスが生田原で、Bクラスが丸瀬布でスタートが行われ、佐々木修一遠軽町長、河原英男教育長がそれぞれレースの火ひたを切りました。大会では、普段あまり見ることのない競技自転車のスピード、自転車が生み出すごう音に沿道の観客から「すごい早い」「大迫力だね」といった声も聞こえ、興奮した様子で選手たちに手を振りながら声援を送っていました。

●広報えんがる 10月号

9月6日から8日までの3日間、にわたる自転車のロードレース「第33回ツール・ド・北海道2019」が開催され、9月7日の第2ステージでは帯広市をスタートして、音更町、土幌町、上士幌町、三回峠、石北峠を抜け、北見市のフィニッシュまでの174kmを走行。土幌町は道道337号から国道274号線、バス待合所の交差点から道道1144号線のコースを選手たちは約15分で駆け抜けました。バス待合所付近には、多くの町民が応援に集まり、旗や手を振りながら大きな声援を送っていました。



土幌町を駆け抜ける ツール・ド・北海道

●広報しほろ 10月号



ゴール前のスプリントに沿道から熱い声援が送られた

迫力のレースに興奮

国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2019」が9月6日から8日にかけて開催され、第1ステージのフィニッシュ地点となった町保健福祉センター前には町民ら多くの観客が詰め掛け声援を送りました。表彰式会場では新得音頭保存会による踊りが披露されたほか、上位入賞者や山岳賞などの受賞者には浜田正利新得町長から「新得そば」や「十勝無敗」を贈呈、公益財団法人ツール・ド・北海道協会から町ヘクロスバイクが寄贈されました。

●広報しんとく 10月号



●我が郷土(広報とうま 10月号)



歓迎

ツール・ド・北海道2019

第70回北海道合唱コンクール 中学校・高等学校部門

開催日 令和元年9月6日(金)～8日(日)
コース 旭川市→帯広市→北見市→当麻町
開催日 令和元年9月14日(土)～15日(日)
会場 帯広市民文化ホール

お店からのコメント

(一社)帯広観光コンベンション協会

●(一社)帯広観光コンベンション協会
制作 歓迎ステッカー

第33回 ツール・ド・北海道2019

北の大地で繰り広げられる疾走ドラマ

9/6 fri - 8 sun

NIPPO ROYCE SUBARU

競輪の補助事業 この大会は、競輪の補助を受けて実施します。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp>

●(一財)北海道開発協会
広報紙「開発こうほう」7月号・8月号 掲載



●Facebook 当麻町
(9月7日・9月23日・9月29日・10月11日)



●ボラティアスタッフによる
Facebookからの情報発信
「ツール・ド・北海道を応援しよう」



●Facebook_上高良野町(9月3日)



●Facebook_愛別町(9月6日)

イベント情報

トップページ > 遊ぶ・学ぶ >

イベントカレンダー(平成31年度)

※イベント日程については、中止・延期する場合がありますので、あらかじめ主催者などへご確認ください。

開催日	イベント名	場所	問合せ先
9月8日 (日曜日)	ツール・ド・北海道2019 (公式ホームページへリンク)	遠軽町ほか	遠軽町教育委員会社会 教育課(0158-42-2191)
9月14日 (土曜日)	森林鉄道蒸気機関車・南宮21号お 月見列車運行・撮影会	丸森市森林公園い この森	遠軽町丸森市総合支所 産業課(0158-47-2213)
9月14・15日 (土・日曜日)	秋13回えんがる物産まつり	太陽の丘えんがる 公園虹のひらば 管理棟前	遠軽町物産協会(0158-42- 8201)

●HP 遠軽町イベントカレンダー



●Facebook_富良野市(9月6日)



●Facebook_土幌町(9月9日)



●YouTube 当麻町(9月29日)

— その他の広報活動 —

■ イベント情報掲載

・雑誌

「バイシクルクラブ」6月20日号 (株式会社エイ出版)
 「開発こうほう」8月号・9月号

・ウェブサイト

「Yahoo!JAPAN ロコ」北海道周辺のイベント情報 (協同組合インフォメーションテクノロジー関西)
 「じゃらんネット」観光ガイド (協同組合インフォメーションテクノロジー関西)
 「ぐうたび北海道」北海道おすすめスポット情報 (北海道バリューズコープ株式会社)
 「北海道Likers」イベント情報 (株式会社日本アメニティクリエイト)

■ テレビ放送

NHK 「ほっとニュースオホーツク」 8月21日(水)6時50分ころ
 北見市長への表敬訪問及び理事長へのインタビュー
 HTB 「イチモニ!」 9月5日(木)7時56分ころ
 開催告知及び交通規制のお知らせ
 NHK 「道内版ニュース」 9月6日(金)12時15分ころ
 NHK 「ほっとニュース北海道」 9月6日(金)18時40分ころ
 HTB 「イチモニ!」 9月7日(土)6時39分ころ
 大会開催中のお知らせ

●主催

公益財団法人ツール・ド・北海道協会
公益財団法人日本自転車競技連盟

●後援

国土交通省
スポーツ庁
経済産業省
北海道
北海道市長会
北海道町村会
公益財団法人JKA
公益財団法人日本スポーツ協会
公益財団法人日本オリンピック委員会
一般財団法人日本自転車普及協会
一般社団法人自転車協会
NHK札幌放送局
北海道テレビ放送株式会社
北海道経済連合会
一般社団法人北海道商工会議所連合会
公益社団法人北海道観光振興機構
一般社団法人北海道建設業協会
一般社団法人北海道舗装事業協会
一般社団法人日本道路建設業協会北海道支部
北海道アスファルト合材協会
一般社団法人北海道バス協会
公益社団法人北海道トラック協会

●特別協力

北海道新聞社

●協力

北海道開発局
北海道経済産業局
旭川市
東神楽町
東川町
美瑛町
上富良野町
中富良野町
富良野市
南富良野町
新得町
帯広市

音更町
士幌町
上士幌町
上川町
北見市
訓子府町
置戸町
遠軽町
愛別町
当麻町
公益財団法人北海道スポーツ協会
一般財団法人北海道交通安全協会
北海道自転車競技連盟
北海道自転車軽自動車商業協同組合
北海道自転車協会
北海道サイクリング協会
特定非営利活動法人北海道歩くスキー協会

●特別協賛

株式会社NIPPON
株式会社ロイズコンフェクト
株式会社SUBARU

●協賛各社

株式会社阿部商会
Mavic Japan株式会社
井上ゴム工業株式会社
IKEUCHI GROUP
ウェッジ株式会社
京極製氷株式会社
サッポロビール株式会社
株式会社JTB 北海道事業部
株式会社シマノ・シマノセールス株式会社
パナソニックサイクルテック株式会社
株式会社パールイズミ
株式会社マトリックス
株式会社フォトクリエイト

岩田地崎建設株式会社
協成建設株式会社
大成建設株式会社
道興建設株式会社
株式会社ドボク管理
株式会社中山組
日吉建設株式会社
菱中建設株式会社
北土建設株式会社

ツールド・北海道2019 大会役員名簿

● 総 裁 綿 貫 民 輔 公益財団法人ツールド・北海道協会会長

● 副 総 裁 鈴 木 直 道 北海道知事[協会顧問]
秋 元 克 広 札幌市長[協会顧問]
西 原 巧 公益財団法人ツールド・北海道協会顧問
眞 田 眞 公益財団法人ツールド・北海道協会顧問

● 大 会 長 山 本 隆 幸 公益財団法人ツールド・北海道協会理事長

● 副大会長 橋 本 聖 子 公益財団法人日本自転車競技連盟会長
笹 部 俊 雄 公益財団法人JKA会長

● 大会顧問 後 藤 貞 二 国土交通省北海道開発局長
安 藤 保 彦 経済産業省北海道経済産業局長

● 大会参与(五十音順)

生 島 典 明 公益財団法人北海道スポーツ協会副会長	高 井 修 北海道経済連合会副会長
池 田 明 聡 池田明聡公認会計士事務所公認会計士	高 松 泰 公益財団法人ツールド・北海道協会常務理事
池 部 彰 南富良野町長	竹 内 正 信 国土交通省北海道開発局帯広開発建設部長
石 川 栄 男 株式会社NIPPO北海道支店常務執行役員支店長	竹 中 貢 上士幌町長
井 上 久 男 置戸町長	田 中 栄 作 一般財団法人日本自転車普及協会常務理事
小 川 魁 北海道サイクリング協会副会長	棚 野 孝 夫 北海道町村会会長(白糠町長)
小 川 敏 雄 社会福祉法人扶桑苑理事長	辻 信 三 医療法人社団 東桑会 札幌北クリニック情報管理顧問
小 野 信 次 音更町長	辻 直 孝 北見市長
角 和 浩 幸 美瑛町長	恒 松 浩 公益財団法人ツールド・北海道協会理事
鹿 嶋 弘 律 国土交通省北海道開発局旭川開発建設部長	西 川 将 人 旭川市長
川 島 聡 公益財団法人JKA執行理事	浜 田 正 利 新得町長
菊 川 健 一 当麻町長	林 辰 夫 公益財団法人日本自転車競技連盟副会長
菊 池 一 春 訓子府町長	日 浅 尚 子 株式会社北海道新聞常勤監査役
木 佐 剛 三 中富良野町長	松 岡 市 郎 東川町長
北 猛 俊 富良野市長	向 山 富 夫 上富良野町長
小 磯 修 二 前釧路公立大学学長	村 上 昌 仁 国土交通省北海道開発局網走開発建設部長
小 林 康 雄 士幌町長	安 江 哲 株式会社北未来技研顧問
小樋山 規 之 サッポロビール株式会社北海道本社副代表	山 口 幸 太 郎 北海道市長会会長(千歳市長)
斉 藤 智 徳 北武コンサルタント株式会社相談役	山 本 進 東神楽町長
坂 敏 弘 一般社団法人北海道建設業協会副会長	米 沢 則 寿 帯広市長
佐々木 修 一 遠軽町長	渡 辺 一 郎 一般社団法人北海道舗装事業協会会長
佐 藤 芳 治 上川町長	渡 邊 実 公益財団法人JKA専務理事
前 佛 秀 幸 愛別町長	

ツール・ド・北海道2019 実行委員会名簿

委員長	森野和泰	公益財団法人北海道スポーツ協会副会長
副委員長	穴田勝彦	公益財団法人日本自転車競技連盟参与
副委員長	小野盛秀	北海道自転車競技連盟会長
副委員長	高松泰	公益財団法人ツール・ド・北海道協会常務理事

所属

委員

幹事

各団体

北海道自転車軽自動車商業協同組合	理事長	小野盛秀	副理事長	高橋嘉弘
			副理事長	服部好泰
北海道自転車協会	会長	村山文彦	理事長	村上昌美
北海道サイクリング協会	副会長	小川光徳	理事	池内勝治
特定非営利活動法人北海道歩くスキー協会	代表理事	丸山光徳	企画推進部長	大野富穂
一般財団法人北海道交通安全協会	専務理事	堀内巖		
公益財団法人北海道スポーツ協会	副会長	森野和泰		
	専務理事	坂本和彦		
公益社団法人北海道観光振興機構	専務理事	黒田秀徳		

国土交通省 北海道開発局

国土交通省 北海道開発局	建設部長	平野令緒	開発調整課長	小林幹男
	開発監理部次長	石塚宗司	開発調整課長補佐	新妻憲嗣
			建設行政課長	佐々木斎美
			河川計画課長	柿崎恒伸
			道路計画課長	井上勝典
			道路建設課長	島多昭哉
			道路維持課長	遠藤達治
			港湾計画課長	箕作幸光
(旭川開発建設部)			次長(総務担当)	越智俊光
			次長(河川・道路担当)	山田拓澄
(帯広開発建設部)			次長(総務担当)	千田澄夫
			次長(河川・道路担当)	齋藤大作
(網走開発建設部)			次長(総務担当)	村越慶次
			次長(河川・道路担当)	高橋一浩

北海道

北海道	スポーツ局長	若原匡	環境生活部 スポーツ振興課長	石丸幸夫
			建設部 建設政策局 維持管理防災課維持担当課長	京田隆一
			建設部 建設政策局 維持管理防災課管理担当課長	早川友浩
			建設部 土木局 道路課長	佐藤匡之
(上川総合振興局)			副局長	今井敏文
			旭川建設管理部 地域調整課長	吉田安範
(十勝総合振興局)			副局長	須藤正之
			帯広建設管理部 地域調整課長	橋本雄太
(オホーツク総合振興局)			副局長	大澤英二
			網走建設管理部 地域調整課長	北本幸徳

市町村

旭川市	観光スポーツ交流部長	三宅智彦	観光スポーツ交流部 スポーツ課長	高橋慶太
帯広市教育委員会	スポーツ振興室長	葛西克也	スポーツ振興室主幹	河瀬祐二
北見市教育委員会	社会教育部長	佐々木賢一	スポーツ課長	三上剛
富良野市	市民生活部長	山下俊明	市民協働課長	安西義弘
東神楽町教育委員会	副町長	西山満彦	地域の元気づくり課長	神田昌作
当麻町教育委員会	副町長	遠藤憲彦	教育長	鍛冶田隆
愛別町教育委員会	副町長	石田光幸	教育次長	谷田道明
上川町教育委員会	副町長	谷博文	教育長	中野俊和
東川町教育委員会	教育長	林万里	生活学習推進課長	佐々木貴行
美瑛町	副町長	池田由行	経済文化振興課長	今野聖貴
上富良野町教育委員会	教育長	服部久和	教育振興課長	及川光一
中富良野町教育委員会	教育長	中島光明	教育課長	牛嶋雅文
南富良野町	副町長	高橋秀樹	総務課長	定塚正文
訓子府町教育委員会	教育長	林秀貴	社会教育課長	高橋治
置戸町教育委員会	教育長	平野毅	社会教育課長	五十嵐勝昭
遠軽町教育委員会	教育長	河原英男	社会教育課長	小野寺正彦
音更町教育委員会	副町長	高木収	スポーツ課長	八欽政幸
士幌町	副町長	柴田敏之	総務企画課企画グループ主幹	増田達也
上士幌町教育委員会	副町長	千葉与四郎	生涯学習課長	須田修
新得町	副町長	金田将	産業課長	石塚将照

ツールド・北海道2019 大会競技役員名簿

■大会実行委員長

森野 和泰

■大会実行副委員長

穴田 勝彦・小野 盛秀・高松 泰

■総務委員長・大会ディレクター

山本 隆幸

■総務副委員長

清水 敏夫

■総務委員

古藤 敏之・鈴木 秀之・鏡 幸恵・石戸谷 眞逸・大脇 恒夫
堀江 洋一郎・小林 かおり・児玉 万里・板谷 治・板谷 京子
安倍 明政・百瀬 堅・真田 達雄・平井 友昭・安江 哲
阿瀬川 稔・宮田 裕行・桑原 直樹・大下 恭弘・深江 園子
岩崎 梢・武政 佳容子・平吹 幸

(協会事務局)

牛島 元嗣・木田 光良・五十嵐 毅彦・山田 幸雄

(式典・賞典担当)

一関 祐次・三原 孝二

(通訳)

デーヴィッドバーネット

(警備・コース担当)

石戸谷 眞逸・小野 俊博・山崎 達哉・今野 昭二・林 公悦
小森 一澄

(会場・車両担当)

湯口 雄司・近藤 幸市郎・河内 義則・伊藤 岳司・澤田 順一
鈴木 伸二・林 実雄・大沼 秀次

(交通対策担当)

嶋田 隆・嘉見 誠一・山崎 常雄・湯山 隼

(オートバイエスコート)

蓮沼 英司・小林 久人・萱原 孝行・山口 哲夫
鈴木 信行・近藤 敏子・近藤 卓・小田 利枝

■広報委員長

湊 雄一

■ 広報副委員長

鏡 幸恵

(広報担当)

山内 康史・岩本 猛起・長尾 歩・岡田 祐之・小石 尚也
加藤 智

(集計・コミュニケ担当)

大脇 恒夫・堀江 洋一郎・島村 千樹・尾西 基樹
兼山 智樹・灘 幸宏・高橋 仁

■補給地点担当

一條 秀巳・富澤 幸一

■選手収容担当

高橋 幸久・齋藤 新人

■審判長

藤森 信行

■技術代表

小野口 裕朗

■競技ディレクター

小野 盛秀

■コミセールパネル

森尻 展充・齋藤 晃一郎

■フィニッシュジャッジ

富和 清訓

(審判員)

大脇 恒夫・中村 恭治・清水 一孝・森本 聡・新井 由郁
奥原 進治・伊藤 将史・平林 功・夏目 幸
伊藤 靖夫・横野 明子・程原 邦夫・中安 基之・福富 義雄
蓼沼 真弓・山上 義明・佐々木 博・力石 達也
高橋 松吉・近嵐 智加良・麦倉 陽介・荒井 純一
細井 佐代子・十時 隆櫻・日里 寿行・日里 芳江・藤原 盛一
小野口 哲也・中野崎 敏幸・小笠原 嘉・大野 直志
松田 敦・勝見 洋一・長谷部 信一・近岡 紀子・高井 孝二
椎名 直子・平出 剛一・蓮沼 英司・酒井 和彦・増原 祥貴
井上 学・寺澤 真幸・山口 智裕・石垣 秀人・中井 豊
平岡 雅史・寺田 稔・假谷 豊・室井 文男
鴨川 敬・鴨川 有李・岸澤 隆・長谷 孝一
金澤 昭二・播磨 和宏・櫻井 雅彦・外崎 修・大場 博史
佐藤 久美子・福島 剛・坂 知明・重田 康成・津田 欣一
工藤 真行・千葉 鶴也・菅 清香・菊地 ひする・寺井 英治
播磨 干穂・近藤 良一・佐藤 雅憲・上野 幸二・和田 真宏
白木 美幸・木村 俊一・松田 茂・前田 健人・西野 勝士
安田 和恵・中野 良宣・松田 健吾・岡部 克・岡部 美知子
奥村 隆一・野中 勇一・佐藤 祐弥・荒井 進

■ドーピングコントロール

(リードドーピングコントロールオフィサー)

鈴木 靖

(ドーピングコントロールオフィサー)

久保 晋大・加藤 信太郎・宮武 宏光

(シャベロン)

上田 一奈太

(事務局担当)

宮 孝司

■NF Rep (国内競技団体代表)

本田 昭二

■医務担当医師

青木 昌弘・山田 隆宏・前田 慶太郎・大坪 優介・伊藤 秀行
及川 欧・森岡 茉莉子

■医務・医療担当

松田 悦子・秋保 頼子・白岩 さやか・横山 由佳・浦木 早紀
三浦 美穂・上田 真歩・村田 俊一・日下部 祐基

■ニュートラルサービス担当

坂東 晃・高橋 義彦・三瀧 光誠・蓼沼 和成・光森 祐輔
藤田 一鷹・合田 光宏・川崎 正志・石橋 旭

●法人

一般社団法人網走建設業協会
 小樽建設協会
 一般社団法人寒地港湾技術研究センター
 札幌自転車競技連盟
 一般社団法人 函館建設業協会
 一般社団法人 北海道開発技術センター
 一般社団法人 北海道開発協会
 一般財団法人 北海道河川財団
 北海道自転車軽自動車商業協同組合
 一般社団法人 北海道商工会議所連合会
 一般社団法人 北海道測量設計業協会
 一般財団法人 北海道道路管理技術センター
 一般社団法人 北海道土地改良建設協会
 一般社団法人 北海道土地改良設計技術協会
 公益社団法人 北海道トラック協会
 稚内建設協会

 赤川建設興業株式会社
 阿寒共立土建株式会社
 秋津道路株式会社
 旭イノベックス株式会社
 株式会社アサヒ建設コンサルタント
 あすなろ道路株式会社
 荒井建設株式会社
 株式会社 安藤・間 札幌支店
 株式会社生駒組
 勇建設株式会社
 株式会社石山組
 株式会社伊豆倉組
 株式会社磯田組
 株式会社伊藤組
 伊藤組土建 株式会社
 株式会社伊藤工業
 岩倉建設株式会社
 岩田地崎建設株式会社
 植村建設株式会社
 株式会社エーティック
 ENEOSレーディング株式会社
 株式会社園 建
 及川産業株式会社
 大江建設株式会社
 株式会社大林組 札幌支店
 大林道路株式会社 北海道支店
 株式会社ガイアート 北海道支店
 株式会社開発工営社
 開発工建株式会社
 鹿島道路株式会社 北海道支店
 機械開発北旺株式会社
 岸本産業株式会社
 株式会社北一組
 北日本港湾コンサルタント株式会社
 協和八光建設株式会社

草野作工株式会社
 栗林建設株式会社
 ケイセイマサキ建設株式会社
 光栄建設工業株式会社
 株式会社構研エンジニアリング
 株式会社小金澤組
 小針土建株式会社
 こぶし建設株式会社
 有限会社サイクル小野サッポロ
 斉藤井出建設株式会社
 坂野建設株式会社
 札建工業株式会社
 札幌建設運送株式会社
 沢田建設株式会社
 三協建設株式会社
 三共電気工業株式会社
 株式会社サン広告社
 清水建設株式会社 北海道支店
 白崎建設株式会社
 株式会社シン技術コンサル
 新太平洋建設株式会社
 新島工業株式会社
 新谷建設株式会社
 世紀東急工業株式会社 北海道支店
 株式会社総北海 札幌支店
 大成ロテック株式会社 北海道支店
 大地コンサルタント株式会社
 大同舗道株式会社
 大北土建工業株式会社
 株式会社ダイヤコンサルタント北海道支店
 株式会社高組
 高玉建設工業株式会社
 タカハタ建設株式会社
 株式会社田中組
 株式会社田中工業
 株式会社谷脇組
 株式会社田端本堂カンパニー
 株式会社玉川組
 株式会社田宮設計事務所
 地崎道路株式会社 北海道支店
 中央コンサルタンツ株式会社 札幌支店
 中大実業株式会社
 株式会社通電技術
 辻谷建設株式会社
 ツバメ工業株式会社
 株式会社DSP
 株式会社ティーネットジャパン北海道支店
 鉄建建設株式会社 札幌支店
 電通設備株式会社
 東亜道路工業株式会社 北海道支店
 東海建設株式会社
 道興建設株式会社
 東光舗道株式会社

株式会社東洋実業
 道路建設株式会社
 道路工業株式会社
 株式会社ドーコン
 徳井建設工業株式会社
 戸田建設株式会社 札幌支店
 戸田道路株式会社 札幌営業所
 飛鳥建設株式会社 札幌支店
 株式会社ドボク管理
 株式会社土木技術コンサルタン
 中道リース株式会社
 株式会社中山組
 西江建設株式会社
 西松建設株式会社 札幌支店
 株式会社日栄建設
 日成建設株式会社
 日測技研株式会社
 日本工営株式会社 札幌支店
 日本データサービス株式会社
 日本道路株式会社 北海道支店
 日本ファブテック株式会社 札幌営業所
 株式会社野田組
 パシフィックコンサルタンツ株式会社
 株式会社橋本川島コーポレーション
 花本建設株式会社
 パブリックコンサルタンツ株式会社
 東日本道路株式会社
 日吉建設株式会社
 株式会社廣野組
 不二建設株式会社
 富士新舗道株式会社
 株式会社藤田組
 藤原工業株式会社
 株式会社不動テトラ 北海道支店
 萌州建設株式会社
 北央道路工業株式会社
 北斗徽章株式会社
 北土建設株式会社
 北都道路株式会社
 株式会社北開水工コンサルタント
 株式会社北海道近代設計
 株式会社北海道新聞社
 北海道道路エンジニアリング株式会社
 株式会社北海道丸和ロジスティクス
 北海道ロードメンテナンス株式会社
 株式会社堀口組
 堀松建設工業株式会社
 幌村建設株式会社
 前田建設工業株式会社 北海道支店
 前田道路株式会社 北海道支店
 丸建道路株式会社 札幌支店
 丸駒シビルサービス株式会社
 丸彦渡辺建設株式会社

三井住建道路株式会社 北海道支店
 宮坂建設工業株式会社
 宮永建設株式会社
 株式会社宮原組
 宮脇土建株式会社
 村井建設株式会社
 株式会社盛永組
 株式会社森本商会
 株式会社山内組
 株式会社山口工業所
 山高建設工業株式会社
 株式会社山田組
 株式会社山伏バコム
 山本電子工業株式会社
 渡辺建設工業株式会社

●個人

阿部 芳昭
 牛島 元嗣
 梅田 勝
 大野裕一郎
 尾埜 森己
 勝見 洋一
 小塚 耕平
 古藤 敏之
 鈴木 秀之
 清水 敏夫
 清崎 晶雄
 高松 泰
 田口 美香
 田下 啓一
 恒松 浩
 東岱 庄一
 巻 登
 湊 雄一
 山本 隆幸
 遊佐 義彦
 渡辺 総悦



TOUR DE HOKKAIDO

お問い合わせ先 / For further information

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル 5階
Daini Dotsu Bldg. 5F, North 5, West 6, Chuo-ku, Sapporo, 060-0005, Japan

公益財団法人ツール・ド・北海道協会 / Tour de Hokkaido Association

電話 (011) 222-5922 ファックス (011) 232-4604

Tel+81-11-222-5922 Fax+81-11-232-4604

<https://www.tour-de-hokkaido.or.jp>

E-mail tourde-h@spice.ocn.ne.jp

E-mail tourdech@jasmine.ocn.ne.jp (for English)

公益財団法人日本自転車競技連盟 / JAPAN CYCLING FEDERATION

電話 (03) 6277-2690 ファックス (03) 6277-2691

Tel+81-3-6277-2690 Fax+81-3-6277-2691

<https://www.jcf.or.jp>

E-mail cycling@japan-sports.or.jp

UNION CYCLISTE INTERNATIONALE (国際自転車競技連合)

TEL+41-24-468-5811 FAX+41-24-468-5812



ROYCE'



SUBARU